

# J.S.V.R.

# ニュースレター

# No.21

2014. 11

発行人 日本バレーボール学会  
会長 遠藤俊郎  
発行日 2014年11月28日  
事務局  
〒417-0801 静岡県富士市大淵325  
常葉大学富士キャンパス 高根研究室内  
Tel&Fax 0545-37-2128  
E-mail:takane@fuji-tokoha-u.ac.jp  
<http://www.jsvr.org/>

## 日本バレーボール学会

The Japanese Society of Volleyball Research



### 巻頭言



## 日本バレーボール学会創立 20 周年を迎えて 次代に期待すること

会長 遠藤俊郎（大東文化大学）

ニュースレター 21 号原稿の印刷所入稿締め切りを 1 週間後に控えた先日、その巻頭言に穴が開きそうなので至急執筆するように！との小川編集委員長からの要請がありました。小生とて、もとより自身の国語能力に自信があるわけではないので、短期間の執筆の安請け合いも如何なものかと思案したところです。しかし、小川委員長の依頼を無下に断る勇気もなく、何とか頑張ってみる！と引き受けてから、ハタと気が付いたのです。待てよ！本年度は日本バレーボール学会（JSVR）創立 20 周年の記念すべき年であり、この執筆依頼は、委員長が小生に会長として最後のご奉公をせよ！という無言の配慮に違いない。感謝こそすれ、一瞬でも小川委員長を恨みそうになった自分を戒めたのは言うまでもありません。奇しくも創立 10 周年にあたる 2004 年度第 11 号ニュースレターの巻頭言においても、当時理事長として「これまでの 10 年、そしてこれからの 10 年を考える」と題して原稿を寄せており、そのことを考えますと創立 20 周年当年に発刊されるそれこそ記念すべき号に会長として言葉を寄せる機会を頂いたことは、小生にとっても大変光栄なことであると共に何か運命的なものを感じます。

さて、20 周年といえば、いわば「人」で言うところの成人式を迎え、ようやく JSVR も一人前の学会として認知される節目に差し掛かったという事ができ、これからが学会組織としていよいよ成熟していくことが期待されます。第 1 回大会のテーマは「温故知新」でしたし、「歴史は繰り返す」という格言もあるので、ここでは今後の組織的成熟のマイルストーンに成らんことを願って、ご承知の通りかとは思いますが改めて JSVR の小史を整理することにします。

JSVR 設立の経緯は、これまでのバレーボール研究の体系化の努力、相互の情報交換の場の設定、等を通じて新たなバレーボール学の構築を目指そう、という発想が発端でした。そして、朽堀申二現特別顧問、矢島忠明現名誉会長、そして私遠藤の 3 名が世話人となり、「バレーボール研究会」としてその設立準備会を開催したのが 1995 年 8 月 4 日（金）でした。その後 2 回の準備会を経て 1996 年 5 月 25 日（土）に記念すべき第 1 回総会・研究会が 121 名の大会参加者を迎えて早稲田大学体育局（当時）を会場として開催され、正式にバレーボール研究会が産声をあげました。さらに、1999 年名称を「バレーボール学会」へと発展的に改め、2004 年度には設立 10 周年を迎え、東京女子体育大学（森田昭子実行委員長）において盛大に記念大会（2005 年 3 月 26・27 日）を開催いたしました。また、記念書籍としまして会員 57 名の英知を集結した「シンキングバレーボール 100Q 入魂」（日本文化出版）を出版することもできました。

この 10 年という節目において、当時の理事長として巻頭言の中で強調したのは、ゼロからのスタートを切ったバレーボール学会でしたが黎明期に当たる初めの 10 年で学会としての基礎作りの期間は終了し、次代の 10 年はいよいよ拡充期に入る段階と位置付けたいという事でした。

このように、次代 10 年に向かってのスタートが切られましたが、2007 年には日本学術会議協力学術研究

団体に指定され、2008年9月には日本学術会議の編成替えに伴って組織された「日本スポーツ体育健康科学学術連合（略称：学術連合）」の設立とともに関連学会として加盟しました。さらに学術連合傘下34学会の名称等とのバランスと今後のアジア各国バレーボール研究者との連携の進展を考慮して第14回大会時総会（2009年2月28・3月1日：夙川学院短期大学，藤島みち実行委員長）において「日本バレーボール学会」と名称を改めました。そして、創立15周年という節目の2010年度では、国際的なバレーボールに関わる情報交換を図ることを目的として、台湾国立東華大学における「2010東アジアバレーボール科学会議（2010 East Asia Conference on Volleyball Science）」（2010年8月23～25日）に13名の学会員が参加し、学会の輪の国際化の試みを推進することができました。さらに記念事業の一つとして、2005年度にスタートした「バレーボール用語検討ワーキンググループ」（古沢久雄委員長）の検討成果を引き継ぐ形で、今日氾濫している様々なバレーボール用語の整理とその解説を目指して、河合学学会理事長を編集委員長に据え「Volleypedia バレーボール百科事典」（日本文化出版）を編纂いたしました。さらに本書は2012年度「2012年度改訂版」としてリニューアルされており、現在バレーボール用語の教科書的存在になっていると自負しております。また2007年度より設置された「キッズバレーボール研究ワーキンググループ」（川田公仁委員長）の研究成果を集大成した2巻から成るDVD「Enjoy Volleyball（エンジョイ・バレーボール～遊びで動きづくり～）」（NPO法人スポーツ指導者支援協会）の発刊も記念事業の一環でした。

もちろん、この間、機関誌「バレーボール研究」の発刊、ニュースレターの発行、定例の学会総会・研究大会の開催、毎年1～2回の研究集会（バレーボールミーティング）、等の年次活動を積極的に継続してきたことは言うまでもなく、いずれにしてもこれまでの様々な学会活動の成果は、歴代学会役員の方の献身的尽力と学会員の理解の賜物と、ここに衷心より感謝の意を表したいと思っております。

Moreland & Levine(1988)は、集団が形成されてから成熟し崩壊するまでの発達過程について、「幼年期」⇒「青年期」⇒「壮年期」⇒「老年期」の4期を示しています、そしてこの理論を参照して山口（2008）は、「壮年期」におけるチームワークの発達とリーダーシップについては、メンバー各自が職責を果たす力量を身につけると共に、チーム全体で成果を上げるために協働が重要であることを十分に自覚して自律的に行動することができるので、全員がリーダーシップを発揮してまとまっていく状態を作り上げることが可能になるとしています。JSVRもいよいよ「壮年期」に向かう段階にさしかかりつつあると思っております。学会役員はもちろんのこと、学会員の皆様方の積極的なご協力を頂きながら、学会関係者全員が協働して是非“我々の学会”“自分たちの学会”という意識でさらにJSVRを育てて頂ければと思っております。

最後になりましたが、2015年3月7～8日には早稲田大学を会場に、JSVR創立20周年記念大会（松井泰二実行委員長）の開催を計画し、現在鋭意準備を進めております。是非多くの会員の方にご参会の上、盛大に20周年を祝って頂きたいと心からお願いすると共に、重ねてこれまで賜りましたご厚情に厚く感謝申し上げます。